

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査内容について

### (1) 調査対象

〔小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒〕

### (2) 調査事項

#### ①教科に関する調査

〔小学校：国語・算数〕〔中学校：国語・数学〕

#### ②質問紙調査

〔学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査〕

### (3) 調査方式

〔悉皆調査：市内すべての市立小中学校で実施〕

### (4) 調査日時

令和3年5月27日（木）

## 2 調査結果の概要について

◇：全国や茨城県との比較において成果のあった問題

◆：全国と茨城県との比較において課題となった問題

### 【小学校：国語】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題 ◆:課題となった問題)	正答率
(1)言葉の特徴や使いに関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ※(2)(3)に関しては，出題なし ◇ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 「げんいん」 「ころがっている」 ◆ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。	78.6% 71.5% 43.8%
話すこと・聞くこと	◇ 資料を用いた目的を理解する。 ◇ 目的や意図に応じ，資料を使って話す。	74.7% 78.9%
書くこと	◆ 目的や意図に応じて，理由を明確にしなが，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ◆ 自分の主張が明確に伝わるように文章全体の構成や展開を考える。	58.3% 59.0%
読むこと	◇ 文章全体の構成を考え，内容の中心となる事柄を把握する。 ◆ 目的に応じ，文章と図表と結び付けて必要な情報を見付ける。 ◆ 目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約する。	80.6% 32.5% 27.0%

### 今後に向けて

全ての領域において全国平均を下回る正答率となりましたが、「読むこと」において「文章全体の構成を考え，内容の中心となる事柄を把握する」では全国平均や県平均を上回る結果となりました。文章全体の構成を捉え，要旨の把握ができています。一方で，「目的に応じて，文章と図表と結び付けて読むこと」や「目的に応じて，中心となる語や文を見つけて要約すること」に課題があると考えられます。

今後，文章と図表との関係を捉えて読むことができるようにするために，ICT等を活用し，図表が文章のどの部分と結びつくのか情報を視覚的に整理することが効果的だと考えます。また，要約については，要約する目的を意識して，内容の中心となる語や文を選び，要約の分量を考えて要約する学習を継続していくことが必要と考えます。

【小学校：算数】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題 ◆:課題となった問題)	正答率
数と計算	◇ 2つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。	64.2%
	◇ 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。	83.3%
	◆ 商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し計算することができる。	55.1%
	◆ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、理由を説明できる。	50.3%
図形	◇ 直角三角形を組み合わせた図形の面積を求めることができる。	74.0%
	◆ 直角三角形の面積を求める式と答えを書くことができる。	50.8%
	◆ 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述できる。	44.2%
測定	◇ 条件に合う時刻を求めることができる。	86.8%
変化と関係	◇ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。	87.7%
	◇ 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。	85.0%
	◆ 速さを求める除法の式と商の意味を理解している。	57.8%
データの活用	◇ 棒グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりすることができる	96.6%
	◇ データを表に分析整理することができる。	92.4%
	◆ 複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。	69.3%

今後に向けて

5つの領域の内「数と計算」「変化と関係」「測定」「データの活用」の4領域は全国平均を上回る結果となりました。問題に対して答えを選択する正答率は全国平均を上回っていますが、短い言葉で答える問題に対しての正答率は全国平均を下回っています。

今後は、数、式、グラフを関連付けながら、問題に対して適切に思考できるような授業改善に取り組んでいきます。また、学習用端末を効果的に活用し、自分の考えについて根拠を明確にして説明したり交流したりできるような活動を日常的に取り入れた学習を展開していきます。

【中学校：国語】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題 ◆:課題となった問題)	正答率
話すこと・聞くこと	◇ 話合いの話題や方向を捉える。	90.5%
	◇ 質問の意図を捉える。	93.1%
書くこと	◇ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。	69.5%
	◆ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。	25.0%
読むこと	◇ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。	70.1%
	◆ 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。	17.4%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇ 文脈に即して漢字を正しく読む。：「 <u>伸ばして</u> 」	96.3%
	◇ 文脈に即して漢字を正しく読む。：「 <u>詳細</u> 」	82.9%
	◆ 相手や場に応じて敬語を適切に使う。	36.4%

## 今後に向けて

4領域の内、「話すこと・聞くこと」において全国を上回る結果となりました。本市の課題としては、読むことでは、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと」です。全国平均正答率 20.5 % の難問でしたが、本市の正答率は全国よりも下回る結果となりました。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」として「相手や場に応じて敬語を適切に使うこと」にも課題が見られました。

文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝えあったりする言語活動を通して指導することが大切だと考えます。「敬語」については、敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付け、敬語のもつ働きを理解できるように指導していきます。また、相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けさせていきたいと考えます。

### 【中学校：数学】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題 ◆:課題となった問題)	正答率
数と式	◇ 整式の加法と減法の計算をしたり、一元一次方程式を作ったりすることができる。	72.0%
	◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	83.4%
	◆ 目的に応じて式を変更したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。	55.9%
	◆ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。	27.8%
図形	◇ 扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。	62.7%
	◆ 四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。	42.9%
	◆ 錯角が等しくなるための2直線の位置関係を理解している。	51.7%
	◆ ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、数学的に表現できる。	25.4%
関数	◇ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。	92.9%
	◆ 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の量の重さを求める方法を説明できる。	25.9%
資料の活用	◇ 与えられたデータから中央値を求めることができる。	76.3%
	◇ ヒストグラムから階級の度数を読み取ることができる。	79.2%
	◆ 相対度数の必要性和意味を理解している。	35.3%
	◆ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	10.2%

## 今後に向けて

全ての領域で全国平均を下回る結果となりましたが、「図形」領域で改善傾向にあります。「関数」の領域や記述式の問題に課題が残る結果となりました。

今後は、適応練習や振り返りの時間を充実させることで、基礎・基本の定着を図ると共に、学習用端末を効果的、日常的に活用し、自分の考えについて根拠を明確にして説明したり交流したりできるような学習を展開していきます。また、標準偏差の値が全国平均よりも高いことから、個に応じた指導の充実を図っていきます。

